

大阪は‘まち’がほんまにおもしろい



レトロモダンのまち・帝塚山を往く ～古墳と洋館めぐりとスイーツと～

「東の田園調布 西の帝塚山」とまで称された郊外都市・帝塚山。大阪市内三大古墳の1つ、帝塚山古墳や万代池などを巡りながら、日本建築のお屋敷と瀟洒な邸宅のまち並みが同居するレトロモダンのまちを歩いてみましょう。

① 帝塚山古墳

4世紀末期から5世紀初頭にかけての前方後円墳です。大和朝廷に高官として仕え、この付近に居宅があった豪族大伴金村の墓という説もありますが定かではありません。現存している塚は、前方後円墳として原形をとどめる市内唯一のもので、全長約120m。帝塚山古墳のある住吉区一帯は多くの古墳が築かれていたことが推定され、この付近にも大手塚、小手塚と呼ばれた古墳があったことが確認されています。

② 遠藤家住宅（国指定等文化財）

帝塚山住宅地が形成され始めた大正11年（1922）、多数の西洋建築を手がけた建築家であり宣教師であったヴォーリスが宣教師館として建てました。正面中央の玄関ポーチ、両側面に立つ赤レンガの煙突、広くてバランスの良い配置がミッション住宅の特色を示しています。

③ 市川家住宅（帝塚山スタジオ）

現在は帝塚山スタジオ・市川恵子フラメンコ舞踏研究所として活用されています。母屋の2階部分が洋館で和洋折衷を取り入れた造りは帝塚山地域でも非常に珍しいものです。漆喰の壁と木がフラメンコに適していることから、土蔵を本格的にフラメンコスタジオに再生利用しています。

④ CLASSIC1010

白壁がくっきりさえる蔵のギャラリーです。伝統美とアートが融合する新美術空間で“ともに遊ぶ”を提案しています。敷地全体は集合住宅WILL帝塚山として、第22回大阪都市景観建築賞（愛称 大阪まちなみ賞）を受賞しました。元は市川右太衛門旧宅にあった蔵で、庭にあった石や灯籠も中庭として活用しています。

⑤ 高谷家住宅（国指定等文化財）

銅版切妻屋根のてっぺんには風見鶏、2つの屋根窓と煙突が童話のような雰囲気を見せる、大正13年（1924）頃建築の住宅です。洋風の格天井と暖炉のある和室など、和洋の調和を生かした造りとなっています。応接室は船室に見立てて作られ、船窓のように嵌め込まれたステンドグラスはヨットの絵柄が描かれています。

⑥ 帝塚山学院

大正6年（1917）に帝塚山学院小学校が開校後、幼稚園、中学校、高等学校、そして大学・短大と、開発の時代から現代に至るまで帝塚山のシンボルとして在り続けています。（現在帝塚山にあるのは小学校、幼稚園、中学校、高等学校のみ）閑静な住宅地になじむ色合いの校舎は、第20回大阪都市景観建築賞（愛称 大阪まちなみ賞）を受賞しています。

⑦ 万代池

読み方は「まんだいいけ」と「ばんだいいけ」の2通りがあります。上町台地の浸食谷をせき止めてつくられた池と言われていますが、江戸時代に農業用に造られたという説もあります。その昔、魔物が住んでいて、聖徳太子が曼荼羅経をあげて魔物がなくなったという伝承もあり、池の島には古池竜王が祀られています。この辺りは昔、雑木と雑草が繁る寂しいところでしたが、帝塚山の開発が始まると一変して、大正時代には帝塚山共楽園という遊園地ができました。現在の万代池公園はランニング・ウォーキング・飼犬の散歩などで、多くの市民の憩いの場として愛されています。4月は桜、5月は杜若（かきつばた）の花が咲いて見物です。

⑧ 熊野街道

熊野街道は、和歌山県熊野本宮への参詣道で、平安時代から鎌倉時代にかけて皇族・貴族から庶民に至るまで、「蟻の熊野詣」といわれる程、多くの人々の往来で賑わいました。万代池西側や阪上町線沿いを通っていました。

⑨ 阪上町線・帝塚山三丁目駅

明治33年（1900）、天王寺西門から東天下茶屋まで、馬15頭、車7両をもって大阪馬車鉄道の名称で創業されたのが現在の上町線です（電車となったのは明治43年）。阪堺線とともに、大阪に唯一残る路面電車として人気があります。



帝塚山の開発について

明治初期までは耕作に適さない荒地だった帝塚山。明治半ばに阪堺鉄道など交通機関が開通すると、住吉村の住人の手により開発が始まりました。大正5年（1916）に帝塚山学院が設立されると、地区一帯は高級住宅地・文教地区として発展しました。大正14年（1925）に大阪市に編入された頃には、すでに農村風景は姿を消し、日本に名だたる高級住宅地として知られていました。

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または「大阪あそ歩」でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。